

伊達な  
国際交流員の  
つれづれコラム  
vol.90



「夏の終わりを告げる花火大会」

Sending Summer Off with a Bang

英訳版を  
見る▶



アメリカでも夏には花火大会が行われます。僕らの地元近辺で一番大きな花火大会は、リバーフェストというイベントの最後を飾るものとして開催されます。シンシナティ市のオハイオ川周辺で開催されます。リバーフェストとは、9月初旬の祝日であるレイバー・デー（労働者の日）に開催される夏の終わりを告げるイベントです。日中は屋台が並び、ゲームやアクティビティ、ライブ音楽などもあり、日本のお祭りのようなものです。

花火大会は通常30分間、オハイオ川に架かる橋から打ち上げられ、ラジオ局が用意したロック音楽のプレイリストをサウンドトラックとして流します。近隣の複数の高速道路が車両通行止めになり、高速道路からでも見ることができます。しかし、花火を見るのに一番良い場所は川の上です。川には指定された場所があり、ボートを持っていける人はそこに停泊して花火を間近で楽しめます。夏の終わりを告げる花火は寂しいけれど、いつも家族と楽しんでいました。国際交流員として働いている間は、伊達市や日本各地で花火を楽しみ、アメリカと日本、地域ごとの違いを見るのを楽しみにしています！

（キャメロン）

地域の魅力  
ふる里再発見

現代に残る  
江戸時代の繭

令和6年度第1回企画展  
伊達のお蚕用具展

9月23日(日)祝日まで  
伊達市保原歴史文化資料館

かつて伊達地方周辺は、優良な蚕種（蚕の卵）を製造する地域として有名で、安永2（1773）年には、幕府より全国で唯一「蚕種本場」の称号を許されました。蚕種製造業を営む蚕種屋さんは、毎年その年の出来の良い繭をサンプルとして残し、「繭見本」にしています。伊達市には、梁川町の蚕種屋中村佐平治家の寛政4（1792）年から昭和55（1980）年までの百年以上にわたる繭見本や、伏黒の蚕種屋佐藤與惣左衛門家の江戸時代の繭見本が残されており、いずれも国の重要有形民俗文化財指定となっています。

このうち佐藤與惣左衛門家の繭見本は、明治時代に共進会（品評会）へ出品するために、古くは宝暦2（1752）年より安政5（1858）年の繭を、その時代の養蚕や繭の市場、天気、相場などの記述を添えて3つに分けて額装したものです。なかでも宝暦2年の繭は、日本に現存する最古の部類に入るといわれています。福島蚕業学校（現・福島明成高校）の初代校長で、蚕の遺伝学でも有名な外山亀太郎氏は、当時この繭を見て、「全国一の古い繭」と賞賛しました。

また、それぞれの繭に添えられた墨書も資料的価値の高い内容となっています。安永3（1774）年の繭には、蚕種本場として課せられた運上（税）の記述がみられます。

この繭見本は、伊達市保原歴史文化資料館にて開催中の企画展「伊達のお蚕用具展」にて展示しています。



「繭見本 佐藤與惣左衛門家」  
重要有形民俗文化財 伊達市蔵

にじいろのだて(男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）』… 職場、学校、地域、その他社会のあらゆる場において、相手の意に反した性的な言動によって相手を不快にさせること。

